

平成20年度 全国学力・学習状況調査
宮崎県の調査結果

1. 結果の概要

学校政策課

◆ 調査の目的

- (1) 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

◆ 調査の概要

- 1 調査実施日 平成20年4月22日(火)
 - 2 対象学年 小学校第6学年、中学校第3学年
 - 3 調査対象 県内の全公立小・中学校
小学校：257校(11,433人) 中学校：142校(10,843人)
- ※ 私立学校も参加しているが、示しているのは、県内の公立小・中学校の結果のみである。

◆ 宮崎県の公立小・中学校の学力調査結果の概要

※ 太字が宮崎県の平均正答率、()の中は、全国の平均正答率

学 年	年度	国語A (%)	国語B (%)	算数A (%)	算数B (%)
小学校 第6学年	H20	66.9 (65.4)	48.9 (50.5)	74.0 (72.2)	49.1 (51.6)
	H19	82.2 (81.7)	60.0 (62.0)	83.7 (82.1)	63.6 (63.6)
中学校 第3学年	H20	74.8 (73.6)	61.5 (60.8)	64.8 (63.1)	50.5 (49.2)
	H19	82.7 (81.6)	74.0 (72.0)	75.0 (71.9)	62.9 (60.6)

- A問題：主として「知識」に関する問題
身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能
- B問題：主として「活用」に関する問題
知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力などに関わる内容
様々な課題解決のための構想を立てて実践し評価・改善する力などに関わる内容

本県の児童生徒の学力の状況は、受験した児童生徒の集団が昨年と異なる上に、問題も昨年と異なることから、単純に比較することはできないものの、正答率が全国平均とほぼ同じであり、昨年度と同様、概ね良好である。

中学校においては、すべての教科で全国平均を上回っているものの、小学校においては、国語、算数ともに活用に関するB問題が全国平均を下回っており、今後、対策を講じながら、改善を図っていく必要がある。

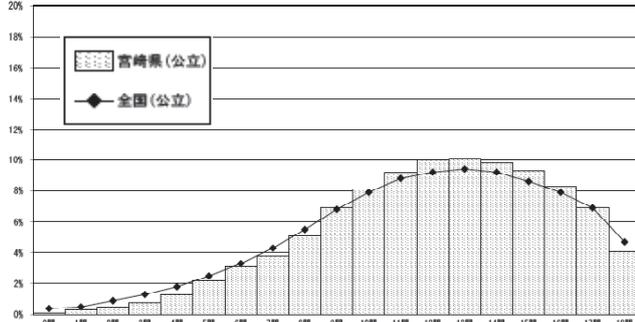
調査は学力の一部を測るものであるが、調査結果の詳細な検討・分析を今後の施策の検証や授業改善に生かしていくことが大切である。

平成20年度 全国学力・学習状況調査
宮崎県の調査結果

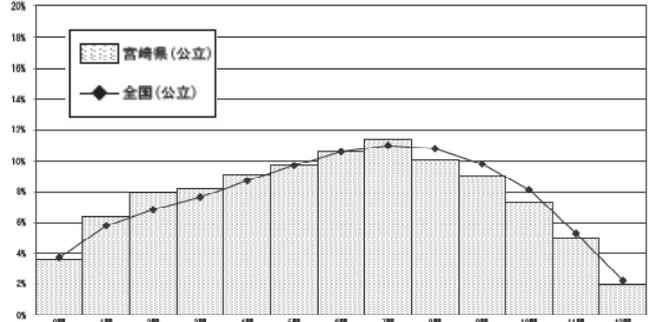
2. 小学校国語の結果概要

学校政策課

◆ 宮崎県全体の正答数分布状況（公立）
小学校国語A（18問）



小学校国語B（12問）



※ 棒グラフが宮崎県の平均分布状況、折れ線グラフが全国の分布状況 横軸：正答数、縦軸：児童の割合

◆ 学習指導要領の領域・問題形式ごとの公立小学校の平均正答率

※ 太字が宮崎県の平均正答率、()の中は、全国の平均正答率、下段は全国平均との差

領域	国語A	国語B
話すこと	74.5 (76.1)	72.3 (73.0)
聞くこと	-1.6	-0.7
書くこと	52.8 (53.3)	48.0 (49.1)
	-0.5	-1.1
読むこと	46.9 (44.5)	45.8 (48.3)
	+2.4	-2.5
言語事項	67.2 (65.2)	
	+2.0	

問題形式	国語A	国語B
選択式	54.9 (55.7)	45.3 (47.5)
	-0.8	-2.2
短答式	71.5 (69.2)	49.2 (51.0)
	+2.3	-1.8
記述式		50.0 (51.3)
		-1.3

◆ 小学校国語の結果概要（全国平均との比較）

【話すこと・聞くこと】

- (A) スピーチの組み立ての工夫をとらえることに課題がある。

【書くこと】

- (A) 言葉の使い方について調べ、結果から考えたことを書くことに課題がある。
- (B) 意見文を書くために、二つの意見文を比べて読み、文章全体の組み立ての違いをとらえることに課題がある。

【読むこと】

- (A) 目的や意図に応じて、段落の内容をとらえることは全国平均よりよくできている。
- (B) 登場人物の特徴、心情や場面についての描写をとらえることに課題がある。

【言語事項】

- (A) 漢字を正しく読んだり書いたりすることや漢字を使い分けることは全国平均よりよくできている。

- (A) (B) 無解答率が全問題を通じて全国平均より少なかった。

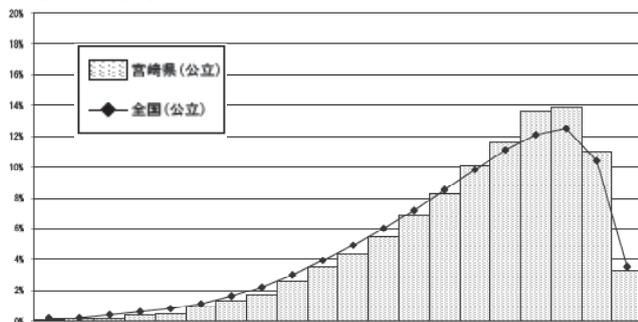
○は全国と比べよくできているもの
●は全国と比べ課題と考えられるもの

平成20年度 全国学力・学習状況調査
宮崎県の調査結果

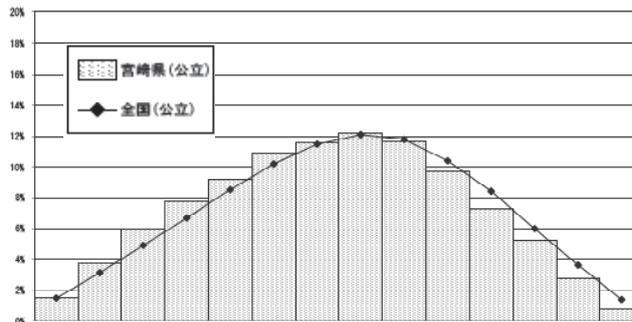
3. 小学校算数の結果概要

学校政策課

◆ 宮崎県全体の正答数分布状況（公立）
小学校算数A（19問）



小学校算数B（13問）



※ 棒グラフが宮崎県の平均分布状況、折れ線グラフが全国の分布状況 横軸：正答数、縦軸：児童の割合

◆ 学習指導要領の領域・問題形式ごとの公立小学校の平均正答率

※ 太字が宮崎県の平均正答率、()の中は、全国の平均正答率、下段は全国平均との差

領域	算数A	算数B
数と計算	79.0 (76.8) +2.2	63.1 (65.2) -2.1
量と測定	56.4 (56.2) +0.2	51.2 (53.3) -2.1
図形	73.5 (72.7) +0.8	58.8 (61.2) -2.4
数量関係	75.6 (72.4) +3.2	42.4 (44.9) -2.5

問題形式	算数A	算数B
選択式	58.8 (57.5) +1.3	58.8 (62.1) -3.3
短答式	79.4 (77.4) +2.0	72.0 (74.0) -2.0
記述式		25.7 (27.7) -2.0

◆ 小学校算数の結果概要（全国平均との比較）

【数と計算】

- (A) 小数の計算における乗数と積の大きさ、除数と商の大きさの関係については全国平均よりよくできている。
- (B) 与えられた情報を整理したり選択したりして、筋道を立てて考え、示された判断が正しい理由を数学的に表現することに課題がある。

【量と測定】

- (B) 図形の性質と面積を関連付け、円の面積を求めることに課題がある。

【図形】

- (A) 基本的な平面図形の定義や性質については全国平均よりよくできている。
- (B) 事象を観察して、図形を見いだすことに課題がある。

【数量関係】

- (A) 百分率の意味については全国平均よりよくできている。
- (B) 棒グラフや円グラフを基に、目的に応じて情報を選択することに課題がある。

- (A) (B) 無解答率が全問題を通じて全国平均より少なかった。

○は全国と比べよくできているもの
●は全国と比べ課題と考えられるもの

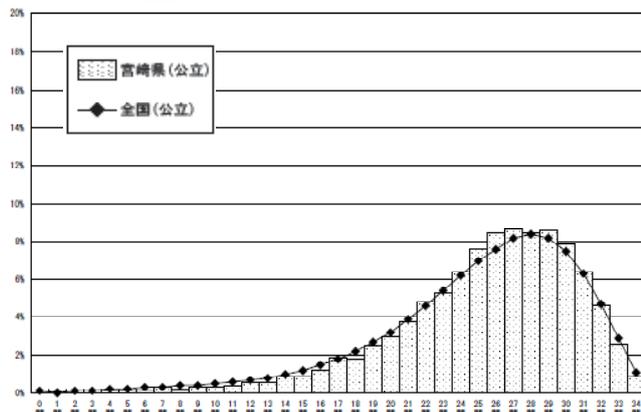
平成20年度 全国学力・学習状況調査
宮崎県の調査結果

4. 中学校国語の結果概要

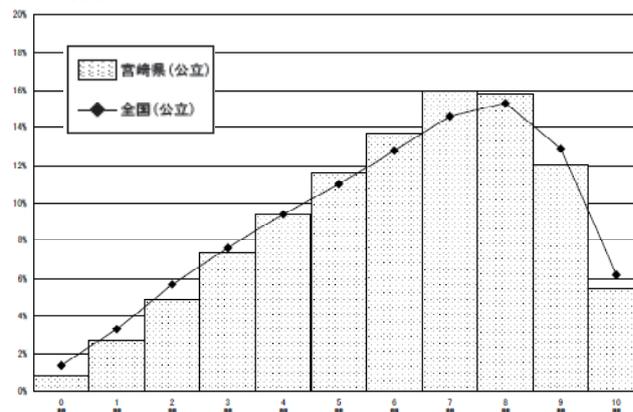
学校政策課

◆ 宮崎県全体の正答数分布状況（公立）

中学校国語A（34問）



中学校国語B（10問）



※ 棒グラフが宮崎県の平均分布状況、折れ線グラフが全国の分布状況 横軸：正答数、縦軸：児童の割合

◆ 学習指導要領の領域・問題形式ごとの公立中学校の平均正答率

※ 太字が宮崎県の平均正答率、（ ）の中は、全国の平均正答率、下段は全国平均との差

領域	国語A	国語B
話すこと 聞くこと	80.2 (80.1) +0.1	
書くこと	53.8 (55.2) -1.4	48.6 (46.7) +1.9
読むこと	71.7 (71.0) +0.7	61.5 (60.8) +0.7
言語事項	77.1 (75.2) +1.9	66.5 (60.5) +6.0

問題形式	国語A	国語B
選択式	71.4 (71.3) +0.1	70.1 (70.3) -0.2
短答式	80.1 (77.4) +2.7	
記述式		48.6 (46.7) +1.9

◆ 中学校国語の結果概要（全国平均との比較）

【話すこと・聞くこと】

(A) 概ね、全国平均と同じである。

【書くこと】

- (A) 論理の展開に着目し、評価・批評することに課題がある。
- (B) 読み取った情報を根拠として示しながら、自分の立場を明確にして意見を書くことは全国平均よりよくできている。

【読むこと】

- (B) 登場人物の心情をとらえることは全国平均よりよくできている。

【言語事項】

- (A) 文脈に即して漢字を正しく書くことは全国平均よりよくできている。
- (B) 四字熟語の意味や用法に注意することは全国平均よりよくできている。

- (A) (B) 無解答率が全問題を通じて全国平均より少なかった。

○は全国と比べよくできているもの
●は全国と比べ課題と考えられるもの

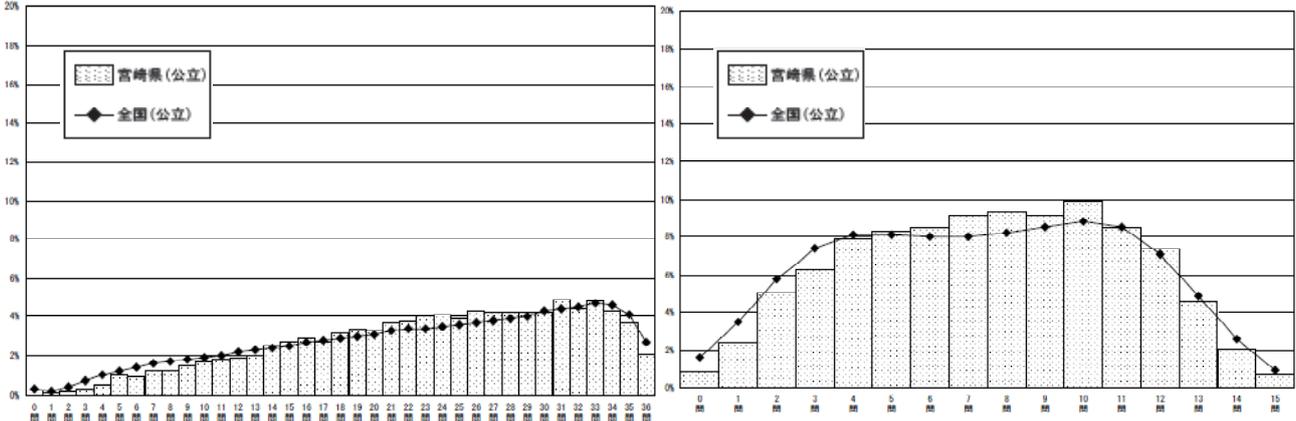
平成20年度 全国学力・学習状況調査
宮崎県の調査結果

5. 中学校数学の結果概要

学校政策課

◆ 宮崎県全体の正答数分布状況（公立）
中学校数学A（36問）

中学校数学B（15問）



※ 棒グラフが宮崎県の平均分布状況、折れ線グラフが全国の分布状況 横軸：正答数、縦軸：児童の割合

◆ 学習指導要領の領域・問題形式ごとの公立中学校の平均正答率

※ 太字が宮崎県の平均正答率、()の中は、全国の平均正答率、下段は全国平均との差

領域	数学A	数学B
数と式	71.9 (68.0) +3.9	56.7 (54.2) +2.5
図形	62.6 (62.7) -0.1	56.6 (57.6) -1.0
数量関係	59.9 (58.6) +1.3	46.3 (44.7) +1.6

問題形式	数学A	数学B
選択式	62.3 (61.8) +0.5	55.1 (55.2) -0.1
短答式	66.8 (64.1) +2.7	66.0 (62.5) +3.5
記述式		36.2 (35.3) +0.9

◆ 中学校数学の結果概要（全国平均との比較）

【数と式】

- (A) 一元一次方程式や連立連立二元一次方程式を解くことは、全国平均よりよくできている。
- (A) 方程式の解き方や解の意味については、全国平均よりよく理解している。
- (B) 2けたの自然数について予想された事柄をよみ、発展的に考え、予想することは全国平均よりよくできている。

【図形】

- (A) 図形の性質や条件を記号を用いて表すことに課題がある。
- (B) 証明の方針をよみ、筋道を立てて考えることに課題がある。

【数量関係】

- (A) 一次関数の式から傾きを求めることは、全国平均よりよくできている。
 - (B) 与えられた情報を分類整理することは、全国平均よりよくできている。
-
- (A) (B) 無解答率が全問題を通じて全国平均より少なかった。

○は全国と比べよくできているもの
●は全国と比べ課題と考えられるもの

平成20年度 全国学力・学習状況調査
宮崎県の調査結果

6. 児童生徒の学習状況の概要

学校政策課

◆ 宮崎県の公立小・中学校の児童生徒質問紙調査結果

※ 質問事項は全調査項目（75問）から構成されているが、ここでは、本県が平成19年度に作成した「こんな子どもは学力が伸びている！学力向上10のポイント（資料参照）」の①～⑥と関連する調査項目についてのみ取り上げる。

※ 数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合を合計したものであり、太字が宮崎県、()は全国の値を示している。

※ 関連番号は、「学力向上10のポイント」の番号を示しており、①～④は、小・中学校共通項目である。

関連番号	全国の学習状況調査の中の質問内容	年度	小学校 (%)	中学校 (%)
小中 ①	もっていくものを事前に確かめている	H20	86.9 (85.3)	87.3 (83.3)
		H19	87.2 (85.2)	86.6 (83.1)
小中 ②	家で学校の宿題をする	H20	96.2 (95.2)	92.9 (81.4)
		H19	96.0 (94.7)	92.2 (80.2)
小中 ③	家で学校の復習をする	H20	78.7 (43.4)	71.3 (39.6)
		H19	74.7 (40.1)	69.2 (39.2)
小中 ④	解き方が分からないときもあきらめずにいろいろな方法を考える	H20	81.6 (76.0)	68.0 (63.6)
		H19	80.1 (74.7)	68.6 (63.0)
小⑤ 中は無し	新聞やテレビなどのニュースに関心がある	H20	66.0 (66.1)	64.6 (64.1)
		H19	65.9 (66.0)	69.1 (67.3)
中⑤ 小は無し	読書は好き	H20	76.6 (72.3)	71.0 (69.0)
		H19	75.1 (71.3)	70.2 (67.9)
小⑥ 中は無し	習った漢字を生活で使おうとしている	H20	78.4 (75.5)	61.5 (58.5)
		H19	76.6 (73.0)	61.0 (58.1)
中⑥ 小は無し	文章問題も最後まで解答を書こうと努力する (H19は、小学校の児童に質問されていない)	H20	68.4 (67.5)	69.0 (63.3)
		H19		79.2 (73.3)

◆ 児童生徒質問紙調査の結果概要（全国平均との比較）

「学力向上10のポイント」は、平成19年度の全国学力・学習状況調査の中で児童生徒に対して行ったアンケートと学力との関係について分析を行い、学力と日常生活との関係の特に深い項目を選び出して作成したものである。この「10のポイント」を心がけて学習に取り組み、学力の定着を目指すことが重要であることから、「10のポイント」に関連付けて、平成20年度の全国調査の結果をまとめた。

- 小学校では「新聞やテレビなどのニュースに関心がある」以外はすべて全国平均を上回っている。
- 中学校ではすべての項目で全国平均を上回っている。
- 「家で学校の宿題・復習をする」は、小・中学校とも全国平均を大きく上回っている。

平成19年度と平成20年度はほぼ同じ傾向である。

○は全国と比べよくできているもの

[資料]

「こんな子どもは学力が伸びている！学力向上10のポイント」

この「学力向上10のポイント」は、平成19年度全国学力・学習状況調査の結果に基づいて作成したものです。(小学校用、中学校用の2種類があります)

小学校用

①もっていくものを事前に確かめている子ども

②出された宿題をその日のうちに終わらせる子ども

③授業の復習をよくする子ども

④解き方が分からないときにもあきらめずにいろいろな方法を考える子ども

⑤新聞やテレビのニュースを見ている子ども

⑥普段よく漢字を使っている子ども

⑦普段よく計算をする子ども

⑧

⑨

⑩

中学校用

①もっていくものを事前に確かめている子ども

②出された宿題をその日のうちに終わらせる子ども

③授業の復習をよくする子ども

④解き方が分からないときにもあきらめずにいろいろな方法を考える子ども

⑤よく読書をする子ども

⑥文章問題も、最後まで解答を書こうと努力する子ども

⑦普段よく計算をする子ども

⑧

⑨

⑩

注：⑧～⑩には、各市町村教育委員会や各学校の実態に応じて記入し、各学校で作成されています。